

(様式1・小学校用①)

令和5年度 学校評価報告

草加市立新田小学校
(令和6年1月23日作成)

1 学校教育目標 生き生き元気伸び育つ新田っ子の育成 (知) よく学ぶ子 (徳) 思いやりのある子 (体) たくましい子 －4つの気 「やる気」 「本気」 「根気」 「勇気」－	
2 重点目標・努力目標 <ul style="list-style-type: none">・授業の質の向上・読書の質的向上・道徳教育の充実・体力向上・幼保小中一貫教育の充実・積極的な生徒指導の推進	3 前年度の成果と課題 成果 ○一部教科担任制等に組織を工夫することで生徒指導・学習指導を充実できた。 課題 ●幼保小中一貫教育を推進するための情報共有や交流行事の実践方法の工夫。

4 評価表 ※評価基準 [A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等		○学校経営の理念・方針の理解を図り、今日お職員の経験や特性を發揮させ、協働する集団を作ることができた。 ●既存の組織をさらに活性化し、学習指導・生徒指導を両輪とした学級経営の充実に向けた取り組みの推進と未届けを行う。
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成		○読書活動の推進の研修を通して、ピブリオバトルなど様々な取り組みにより、図書室に足を運び読書に親しむ児童が増えた。 ●読書活動の研修による成果を様々な教科に広げ、継続して取り組んでいく必要がある。
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用		○危機管理マニュアルの見直し等を行い、教職員に周知することで緊急時に備えることができた。 ●不審者対応など、様々なパターンの対応が考えられるため、今後も見直しや改善を図っていく必要がある。
	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用		○施設設備の安全点検結果に基づく修繕や会計簿などトリプルチェックの実施、個人情報の適切な管理により、事故0を継続させることができた。 ●老朽化に伴う漏水、排水のつまりなど、教育活動への影響を最小限に抑えるよう関係機関との連携を図る必要がある。
	⑤地域との連携 開かれた学校	・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会の推進 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化		○学校運営協議会において共同的な取り組みについて協議した結果、課題や情報を共有することができた。 ●学校・家庭・地域が一体となって目指す子供像の実現に向けてその取り組みをさらに広げていく必要がある。
	⑥幼保小中を一貫した教育	・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じたカリキュラムの編成 ・一貫教育推進のための組織づくり		○学習指導要領に基づいて地域や学校児童生徒の実態に即し、教育課程を編成、実施することができた。 ●幼保小中連絡協議会を必要回数開催したが、推進していくべきものが一体感をもって実践するまでに至らなかった。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 授業時数の配当、確保 		<p>○教育目標の達成を目指し、各学級で学習計画を作成し、計画的に授業を進めることができた。</p> <p>●次年度も行事の実施方法の見直しなど、より良い時数確保の方法を検討する。</p>
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 		<p>○ICTの活用を推進するなど、工夫した教育計画を作成し、主体的・対話的で深い学びの視点に立った学習を進めた。</p> <p>●教育計画の中に、SDGSの要素を取り入れたり、活用場面の具体的取り組みを示したりしていく。</p>
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳的実践力の育成 家庭、地域社会との連携 いのちの教育の推進 		<p>○考え、議論する道徳の実践に向けて校内研修を実施し、指導方法の改善、実践事例の評価方法の共有化を図り、実践力を高めることができた。</p> <p>●共有した実践例等を生かし、児童の道徳的実践意欲を高める指導方法を充実させること。</p>
	④外国語・外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導方法の工夫と改善 評価、評定の工夫 各教科、道徳教育との関連 中学校との連携 		<p>○外国語専科教員やALT、小中連携教員と連携し、外国語指導の充実を図ることができた。</p> <p>●外国語専科教員やALT、小中連携教員を交えた授業プランの打ち合わせ時間を今後も確保していく。</p>
	⑤特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 学級活動、学級経営 学校行事 児童会活動 		<p>○目指す学級像等、活動の目標を全員で共有し、諸問題に目を向け、ともに解決していこうとする意識を高めることができた。</p> <p>●多様な意見が生かされるような助言の仕方について研究していく。</p>
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導内容の充実 指導方法の工夫と改善 評価の工夫 地域の人材・物的資源の活用 		<p>○年間指導計画にICTや学校図書館、ゲストティーチャーの活用を位置づけ、取り組むことができた。</p> <p>●体験的な活動の充実を図っていく。</p>
	⑦生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な生徒指導 問題行動への対処 教育相談、児童理解 いじめ防止対策 保護者、地域、諸機関との連携 		<p>○定期的な生徒指導委員会を開催し、中学校のさわやか相談員とも情報を共有し、組織的に対応することができた。</p> <p>●より積極的な生徒指導を意識し、職員間で連携しながら問題行動の未然防止に努める。</p>
	⑧キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> 計画の立案 指導内容の充実 中学校との連携 啓発的経験の充実 家庭、地域との連携強化 		<p>○キャリアパスポートの活用を継続し、家庭との連携を図ることができた。</p> <p>●各種行事内容や教科指導内容を充実させ、系統的な指導体制を継続していく。</p>
	⑨特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画、支援計画 指導方法の工夫と改善 通常学級との交流 諸機関との連携 校内支援体制の整備 		<p>○コーディネーターが中心となって、個別の指導計画や支援計画を作成し、共通理解のもと児童の対応に当たることができた。</p> <p>●さらなる確実な実態把握に努め、一人一人の障害の特性等に応じた効果的な指導方法・内容を工夫していく。</p>
	⑩学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画、支援計画の作成 図書館補助員の活用 諸機関との連携 図書館の整備 図書館利用の工夫 		<p>○読書活動の推進の研修を通して、ビブリオバトルなど様々な取り組みにより、図書室に足を運び読書に親む児童が増えた。</p> <p>●今年度の取り組みを、今後も継続して取り組んでいく必要がある。</p>
	⑪情報教育	<ul style="list-style-type: none"> 教育計画の作成 校内研修の充実 ICT機器の積極的な活用 情報モラル教育の推進 		<p>○一人1台タブレット端末や大型提示装置などのICT機器を効果的に活用し、学びをより確実なものとすることができた。</p> <p>●ICT機器をより効果的に活用した指導方法について研修を行う。</p>
	⑫人権教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の策定 各教科との関連 人権感覚の育成 校内研修の充実 		<p>○人権教育週間を設定し、人権課題を扱ったDVD視聴で児童の人権尊重意識を高めることができた。</p> <p>●児童一人一人に人権感覚を身に着けさせるため、継続的な指導と授業開発を行い、工夫改善し9て行く。</p>

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
III 特色 ある 学校 づくり	⑬基礎・基本の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の質の向上 ・学習規律の徹底 ・豊かな心の育成 ・健康・体力の向上 		<p>○学校生活全般を通して、児童の思いや願いを生かしながら「探求心・共生心・自律心」を高めることができた。</p> <p>●今後も児童が自ら「考えよう」「協力しよう」「約束や決まりを守ろう」という気持ちを持ち、実践できる力をつけていく。</p>
	⑭開かれた教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・幼保小中一貫教育の推進 ・学校図書館教育の充実 ・学校運営協議会 		<p>○学校運営協議会において一貫教育に関する協議や教育講演会開催・避難所開設訓練等の目的の実現に向けた共同的な取り組みができた。</p> <p>●学校運営協議会を軸に学校・家庭・地域が一体となって目指す子供像の実現に向けた取り組みを広げていく。</p>
	⑮危機管理能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・倫理確立委員会の機能強化 ・安全点検の徹底 ・児童の事故対応 ・教職員事故対応 		<p>○教職員が「居がいい」「やりがいい」のある職場づくりをすることで教職員の自己有用感を高め、事故防止につなげることができた。</p> <p>●危機管理マニュアルなど今後も改善し、その都度共通理解を図っていく。</p>

5 総合評価（学校関係者評価を含む）

○学校教育目標の達成を目指し、職員会議等を活用して具体的に指示・見届けを行い、教職員一丸となって日々の教育活動に取り組むことができた。

○タブレットを積極的に活用したり、主体的対話的な学びを授業に取り入れてきたことで、個別最適な学び、協働的な学びを充実させ、基礎学力を向上させることができた。

○養護教諭、安全主任等を中心に組織的に健康・衛生の保持増進や施設の安全管理等を行い、安全で衛生的な学習環境を作ることができた。

○定期的に学校だよりや学級だよりを発行したり、学校ホームページを更新したりすることで情報を適切に地域や保護者に伝えることができた。

○近隣の幼稚園や保育園と連携し、幼保小の交流活動を充実させることができた。

○読書活動の推進の研修を通して、ビブリオバトルなど様々な取り組みにより、読書に親しむ児童を増やすことができた。

6 次年度の改善策

○幼保小中一貫教育を推進するための情報共有や交流行事の実践方法の工夫改善、カリキュラムにおける一貫性を意識して取り組む。複数の園と一度に交流するのは連絡調整が困難であったため、年間計画に明確に位置付けるなど計画的に進めていく必要がある。

○教育的支援が必要な児童が複数人いるため、対応に当たる人員を整えていきたい。また、全体で共通理解を図り、対応していく体制づくりが必要。

○体育の授業において体力向上を図ってきたが、運動に親しむ児童を増やしていくために、さわやか運動・体育朝会・外遊び等さらに充実させていく必要がある。

○定時退勤ウイークなど積極的に取り入れ教職員の負担軽減に努めてきたが、さらに一步前進するために、教育課程の見直しなど進めていきたい。